年間授業計画 様式例

高等学校 令和８年度（１学年用） 教科　芸術　科目 書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　3 組　　5 組

教科担当者：（3　組：成田　　（5　組：　成田

使用教科書：（ 書道Ⅰ　光村図書　　）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】芸術に関する各教科の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるように

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な機能を身につけるようにする。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			漢仮	漢	仮						
1学期	書写から書道へ ・小・中学校国語科書写と高等学校芸 術科書道の学習の違いを確認する。	書写の復習 （書体・筆順・点画・字形・配列） いろは歌（楷・行）硬筆	○	○	○	○	小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解し、正しく表現できる。 国語科書写と芸術科書道の学習の違いを理解し、 主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	漢字の書（楷書） ・楷書の特徴を理解し、楷書古典の書 風の違いを知る。 ・臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解 する。	唐の四大家に学ぶ 楷書の基本（鑑賞） 臨書とは		○		○	楷書の古典の特徴を理解し、書風の違いを書き分けることができる。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている 楷書に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	2
	・唐の四大家の作品を臨書する。	「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」		○		○	楷書の古典の特徴を理解し、書風の違いを書き分けることができる。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている 楷書に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	22
2学期	漢字の書（行書） ・行書の特徴を理解する。 ・行書の古典を臨書する。	行書の基本・特徴（鑑賞） 「蘭亭序」 「風信帖」		○		○	行書の古典の特徴を理解している。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている 行書に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	20
	仮名の書 ・平仮名と変体仮名を理解する。 ・和歌一首を短冊に書く。	「高野切第三種」			○	○	平仮名と変体仮名を理解している。 仮名の書の基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単 体、線質や字形を生かした表現を身につけている 仮名の書に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	10
3学期	漢字仮名交じりの書 ・漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。 ・臨書で学んだ表現方法や鑑賞で育んだ感性を土台として、自分の表現したいイメージを作品にする。	好きな言葉を書く （創作）	○			○	漢字仮名交じりの書の特徴を理解している。 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 漢字仮名交じりの書に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	生活の中の書 筆ペンで書く。	表書の書き方	○	○	○		用具・用材の特徴と表現効果の関りを理解している。 目的や用途に即した効果的な表現の技能、漢字と 仮名の調和した表現を身につけている。 生活の中の書に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	2 合計 70